

病院理念 手には技術 頭には知識 患者には愛を

はーとよーと

Shinkomonji Hospital



新年挨拶

院長 高橋雄一

脳血管外科 特別顧問 中原一郎の紹介

カマチグループ脳血管外科 特別顧問

脳動脈瘤に対する新しい脳血管内治療

脳神経外科部長 押方章吾

多職種による心不全チームを結成

看護部

なおき整形外科

かかりつけ医⑯

健康フェスタ開催後のご参加のお礼

総務課

新小文字病院
2026.1 Vol.76
ご自由に
お持ち帰り下さい

新小文字病院
2026年1月15日発行

企画
新小文字病院
広報委員会
北九州市門司区大里新町2-5
TEL 0957-3919-7100-00012

当院職員撮影「平尾台の雲海」

高度医療
総合医療

学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのため必要な施設・設備の整備拡充に努めます。

患者と医療情報を共有し、急性期治療から早期リハビリ、在宅医療まで一貫した、患者のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。

地域医療 地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。

患者の権利と責務

- 平等な治療を受ける権利があります。
患者は、その社会的経済的地位、国籍、人種、宗教、年齢、病気の種類によって差別されずに、平等な治療を受ける権利を持っています。
- 治療を自己決定できる権利があります。
患者は、医師による明確でわかりやすい言葉で十分な説明を受けた後で、治療を受ける権利、あるいは治療を受けることを拒む権利があります。
- 情報を知る権利と情報を提供する責務があります。
患者は、医師による診断・治療、または変わり得る治療方法・予後、今後予測される問題に関する権利を持っています。患者は、自身の症状や健康に関する正確な情報を提供し、治療に積極的に参加する責務があります。
- セカンドオピニオンを受ける権利と
プライバシーが守られる権利があります。
患者は、自分の医療内容に対して、医師と共同して選択する権利、他の医師か
- らの意見・相談を得る権利、いかなる場合であっても人格的に扱われ、患者自身の診療に関する全てのプライバシーに関して、万全の配慮を受ける権利を持っています。
- 相談する権利があります。
患者は、十分な情報を得、利用可能な財政的支援について相談する権利を持っています。
- 良質な医療を速やかに受ける権利があります。
患者は、効果的医療行為を速やかに行われることを要求する権利、継続的に支持、検討された質の高い医療を受ける権利を持っています。
- 病院秩序を守る責務があります。
患者は、全ての患者が安全で良質な医療を受けられるように配慮して頂くとともに、職員が適切な医療を行うことを妨げないよう協力する責務があります。また、医療費を適正に支払う責務があります。

新小文字健康フェスタ2025へご参加のお礼

第13回

新小文字健康フェスタ2025を 10月26日(日)に開催いたしました

新小文字健康フェスタにご来場、ご支援をいただきました皆さまには誠に感謝申し上げます。また、門司区、大里6校区の自治会の皆さんや地域の皆さん方のご協力のお陰をもちまして大盛況のうちに幕を閉じることができました。

開催日は雨の予報であり心配していましたが、当日は幸運にも晴天に恵まれました。無事にステージでの演奏や踊りの披露、出店による販売、体験コーナーを実施することができ、来場者の方は十分に満喫された様子でした。

次年度も地域の皆さんへの日頃の感謝と、ふれあいの場として新小文字健康フェスタを盛り上げていけるよう、スタッフ一同励んでまいります。

総務課



診療科目 ご案内

内科 消化器内科 内分泌・糖尿病内科
循環器内科 呼吸器内科 血管外科 外科 呼吸器外科
整形外科 リウマチ科 形成外科 皮膚科 泌尿器科
放射線科 脳神経外科 脊髄脊椎外科 救急科
病理診断科 リハビリテーション科 麻酔科 人間ドック



交通アクセス



北九州都市高速4号線 大里IC

駐車場のご案内

ご来院の際は400台収容可能の駐車場をご利用ください。

- 外来受診・お見舞い 4時間まで 100円
以降1時間毎に 200円
- 検査・手術付添等に関わる長時間滞在 8時間まで 100円
以降1時間毎に 200円

新小文字病院 ホームページ <https://www.shinkomonji-hp.jp/>
E-mail:info@shinkomonji-hp.jp



Design NPO法人列島会 創造館クリエイティブハウス 印刷事業部

カマチグループ 脳血管外科 特別顧問 **中原一郎の紹介**



腦血管外科 特別顧問

なかはら いちろう
中原 一郎 東京医科歯科大学卒業

専門分野

腦血管外科、腦血管內治療、腦卒中診療、
腦神經外科全般

好きな言葉

失意泰然 得意淡然

所属学会

- 日本脳神経外科学会
 - 日本脳卒中学会
 - 日本脳神経血管内治療学会
 - 日本脳卒中の外科学会
 - 日本袖経放射線学会

趣味·特技

- クラシック♪
 - パソコン
 - 寺院・仏像鑑賞
 - 現在は自宅DIYのため、
第一種電気工事士の勉強中(たばりん合格?!)

自己紹介

本年9月から、当院および福岡新水巻病院で外来診療、手術治療に携わるとともに、カマチグループ全体の脳血管疾患の外科治療の顧問として頑張って参ります。熊本県出身ですが、父親の仕事（銀行員）の関係で転勤が多く、私自身も京都や大阪などを経て、小倉記念病院脳神経外科を15年間担当した後、藤田医科大学に異動し、10年ぶりに北九州に戻って参りました。

抱負

脳卒中は、がん・心臓病と並ぶ三大疾患であり、突然私たちの命を脅かします。救命できた場合でも、運動麻痺や言語障害、高次脳機能障害が残存し、要介護状態となることも少なくありません。しかし近年は、脳血管力テール治療や神経内視鏡手術の進歩により、発症早期に適切な治療を行うことで、社会復帰が可能な患者さんが確実に増えています。発症直後から迅速な脳神経外科治療を行い、ただちに積極的なりハビリテーションを展開することで、患者さんの生活復帰・職場復帰を強力に支えています。また、地域の先生方との協力を図り、ご自宅に戻られた後も切れ目のない医療を提供できる体制づくりに努めています。これは患者さんひとりひとりのQOL向上に寄与するだけでなく、地域社会全体としての「医療のSDGs」の実践とも言えるでしょう。

脳血管内治療の発展は、脳卒中を未然に防ぐ医療にもつながっています。脳動脈瘤に対しては、フローダイバーターやW-EBといった最新デバイスによる根治性が高い低侵襲治療が広がりつつあり、頸動脈狭窄症に対しては、頸動脈ステント留置術が標準治療として確立しています。脳卒中の背景には高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、肥満、運動不足といった生活習慣が深く関与し、予防医療や慢性期管理における地域医療との連携は欠かせません。

脳卒中の発症予防から再発防止、急性期治療、そしてその後の生活支援まで私共は地域の先生方とタッグを組み、地域の皆さまの健康を共に守って参ります。



院長 高橋 雄一

ます。地域の皆さんにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は当院の運営に多大なるご厚情とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

令和8年を迎えるにあたり、職員一同、地域医療を守り抜く決意を新たにしております。

昨年2025年は、「2025年問題」、団塊の世代が75歳以上となる節目の年でした。ここ北九州市、門司区においても人口減少と少子高齢化は進行していますが、私はこの状況を單なる「衰退」とは捉えておりません。むしろ、地域の絆を深め、互いに支え

機と考えていました。病気を治す「」だけではなく、住み慣れた門司の地で最期まで安心して暮らしていただけるよう、多職種が連携して生活を支えることこそ、これから医療機関に求められる役割です。

近年、診療報酬改定や医師の働き方改革など、医療を取り巻く制度は大きく変化し、国は医療機能の分化と連携を強く求めています。急性期病院、回復期病院、かかりつけ医、介護施設がそれぞれの持ち場を担いながら、「一つのチーム」として患者さんを支える体制づくりが急務です。当院も地域の医療・介護施設との「顔の見える連携」を強化し、切れ目のない医療・介護の提供に努めてまいりました。

このような変化に対応するため、当院が力を注いでいるのが「病院DX（デジタルトランスフォーメーション）」です。

「DX」と聞くと機械的で冷たい印象を持たれるかもしれません、私たち

の目的は「人への温かさ」を「取り戻す」とあります。マイナンバー、カードによる保険証利用や電子力ル、情報の共有、AI技術による診断支援などを活用することで、事務作業を減らし、その分を診察や説明、ケアの時間に振り向けることができます。

世界では、気候変動による自然災害や国際情勢の不安定化など、不安な出来事が続いております。しかしながら、こんな状況にあっても、命の重さは変わりません。当院は創立以来受け継いだ「断りない救急」の姿勢を、本年も揺るぐことなく貫いてまいります。

24時間365日、いつ、どなたが、どのような状態で搬送されても受け入れられるよう、救急科およびER・救命センターの体制整備とスタッフ教育を重ねております。「新小文字病院があるから安心だ」と地域の皆さまに思つていただけたことが、私たちの誇りであり、日々の原動力です。

私たちは、技術の進歩を積極的に取り入れながらも、医療の本質である

〔愛〕と「奉仕の精神」を決して忘れない。変化を恐れず、挑戦を続けつゝも、「守るべきものは揺るがせにしない——そんな新小文字病院であり続け、べく、職員一丸となって精進してまいります。

本年が皆さまにとって良い一年となりますよう心よりお祈り申し上げる」といわし、変わらぬご支援とご指導ご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願ひ申し上げます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます

高橋院長の新年ご挨拶

脳動脈瘤に対する新しい脳血管内治療 フローダイバーター留置術とW-EB塞栓術



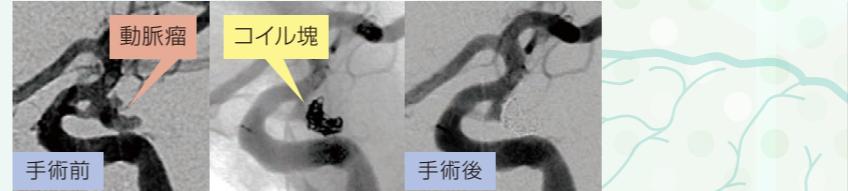
脳神経外科 部長
押方 章吾

出身大学
久留米大学

免許・資格

- 日本脳神経外科学会 専門医・指導医
- 日本脳神経血管内治療学会 専門医・指導医
- 日本脳卒中学会認定脳卒中 専門医・指導医
- 臨床研修指導医
- 液体塞栓治療 (Onyx, ヒストアクリル) 実施医
- フローダイバーター (Pipeline, FRED) 実施医
- 鮫腔内バクロフェン治療実施医
- ポツリヌス治療実施医

脳の血管にできる「脳動脈瘤」は、破裂すると命に関わる「くも膜下出血」を起こす危険な病気です。近年は、頭を開かずにカテーテルで治療する「脳血管内治療」が大きく進歩し、患者さんの負担を大きく減らせるようになってきました。今回は、当院で行なっている最新デバイス「フローダイバーター」と「W-EB」について簡単にご紹介します。



▲図4: フローダイバーター

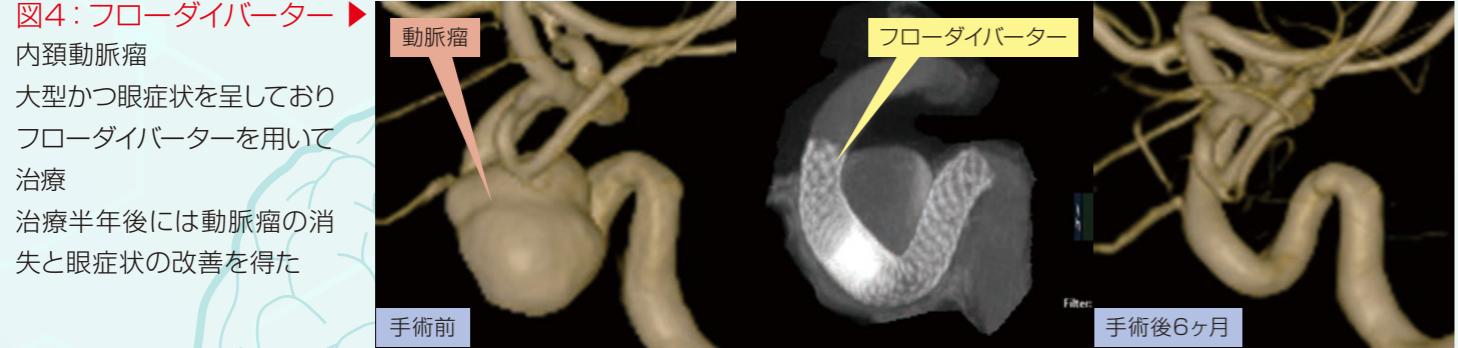
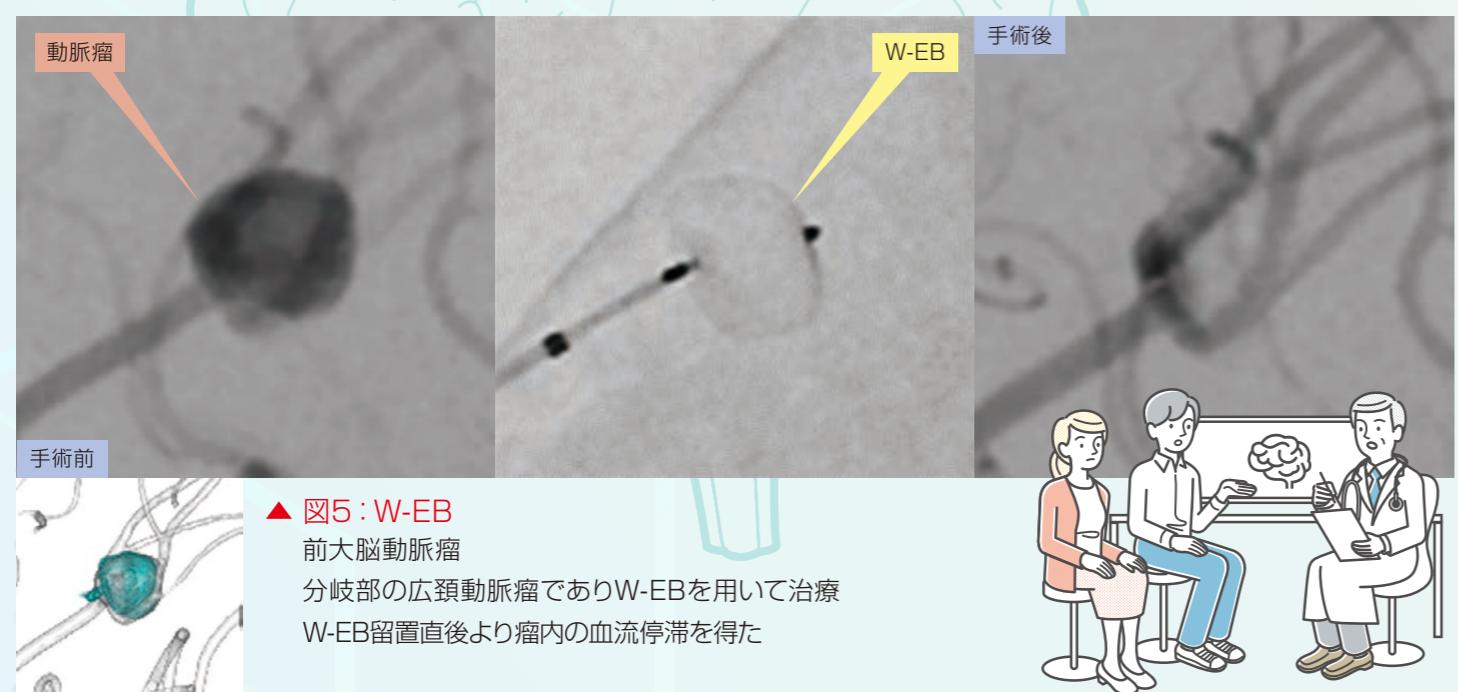


図4: フローダイバーター
内頸動脈瘤
大型かつ眼症状を呈しており
フローダイバーターを用いて
治療
治療半年後には動脈瘤の消
失と眼症状の改善を得た



▲図5: W-EB
前大脳動脈瘤
分岐部の広頸動脈瘤でありW-EBを用いて治療
W-EB留置直後より瘤内の血流停滞を得た

中原一郎先生のご紹介

点が従来治療と大きく異なります。大きな動脈瘤や広頸動脈瘤など、従来治療では対応が難しかった症例でも、根本的な治癒が期待できることが特徴です。また動脈瘤による神経圧迫症状を呈している場合は、本治療により神経圧迫が解除され症状が改善することが期待されます。

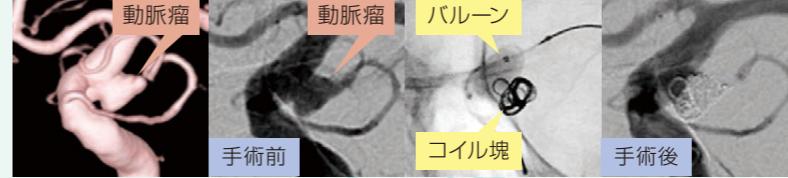
W-EB (Woven Endobridge) (図5) は、瘤内に配置し血流を遮断することで、動脈瘤の血栓化、閉塞を得るデバイスです。特に、「血管の分岐部」にできる動脈瘤で高い有用性を示します。

コイル塞栓術よりも治療時間が短く、安定した塞栓効果が期待されます。また、本治療は従来のステント併用コイル塞栓術やフローダイバーターと異なり、母血管に金属が留置されないので、術前術後の抗血小板薬の使用が最小限で済むことから、長期の抗血小板薬の内服が困難な方や破裂急性期にも選択肢となります。

中原一郎先生が当グループ脳血管外科顧問に着任されました。中原先生は、脳動脈瘤をはじめとする脳血管障害の治療で全国的に知られる脳血管内治療のエキスパートです。本稿で紹介した「フローダイバーター」及び「W-EB」に関して日本有数の治療経験と実績をお持ちです。当院には毎週金曜日に外来及び治療に来院されます。

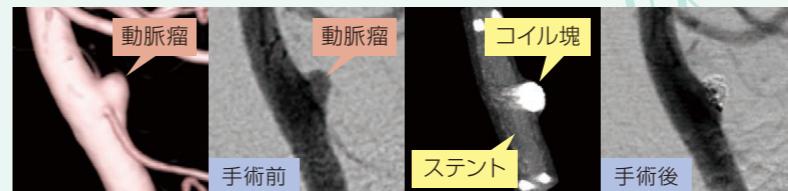
「脳動脈瘤」は、形や大きさ、発生部位、破裂か未破裂かによって治療法が変わります。当院では最新デバイスの適応を含め、患者さんひとりひとりに最も安全で適した治療法を提案します。

近年、脳動脈瘤の治療手段は大きく広がり、従来の「コイル塞栓術」に加え、フローダイバーターやW-EBが適応症例を補完する形で治療成績の向上につながっています。治療適応のご相談やフォローアップの疑問点などございましたら、どうぞお気軽に問い合わせください。



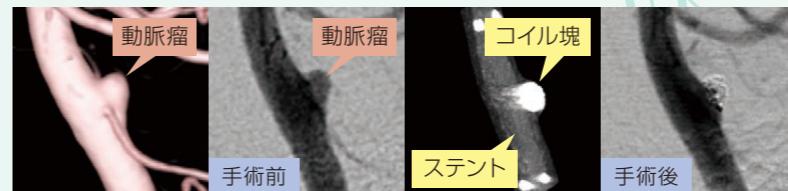
▲図1: コイル塞栓術

内頸動脈後交通動脈分岐部動脈瘤破裂に伴うくも膜下出血
シンプルなコイル塞栓術にて分枝を温存して治療



▲図2: バルーンアシストコイル塞栓術

内頸動脈後交通動脈分岐部動脈瘤破裂に伴うくも膜下出血
広頸の動脈瘤でありバルーンを用いてコイル塊の母血管への逸脱と分枝の温存を図って治療



▲図3: ステント併用コイル塞栓術

椎骨動脈解離によるくも膜下出血
小型血豆状であり慢性期にステント併用コイル塞栓術を施行

**脳動脈瘤の基本的治療法
「コイル塞栓術」**

脳動脈瘤に対する脳血管内治療における基本的な治療方法は「コイル塞栓術」(図1)です。動脈瘤の中に細い金属コイルを詰めて、血液が入り込むのを防ぎ破裂を予防します。

入口が広い広頸動脈瘤では、「バルーンアシストコイル塞栓術」(図2)や、血管内に細い網状のステントを置いてコイルを支える「ステント併用コイル塞栓術」(図3)を行うこともあります。これら的方法により、多くの動脈瘤で安全かつ

効果的な治療が可能です。
一方で、大きな動脈瘤や複雑な形の動脈瘤では、コイルのみでは十分に閉塞が得られない場合があり、新しい治療デバイスが求められていました。

「フローダイバーター」(Flow Diverter) (図4) は、動脈瘤の入口部分に非常に目的細かい金属の筒状デバイスを留置し、血液の瘤内への流れを遮断することで動脈瘤の自然な閉鎖を促す治療法です。「動脈瘤の中を詰める」のではなく、「外側から血流をコントロールする

中原一郎先生
脳神経外科

押方 章吾
脳神経外科

スタイル』を実践しています。
など、他所にはない独自の診療
スタイル』を実践しています。

当院は、骨や関節・筋腱・靭帯
など運動器の不具合に対する
診療はもちろのこと、肩関節
診療に加え、骨粗しょう症治療
や運動器リハビリテーション
にも注力しています。また、土
曜日午後診療・こども優先診療
など、他所にはない独自の診療

私は、大学卒業後、地元の兵
庫医科大学整形外科学教室へ
入局したのち、カマチグループ
の整形外科チームに8年間所
属してきました。2014年に
新小文字病院に勤務し、たく
さんの症例を経験させていた
だきました。以後も様々な場面
で医療連携をさせていただき
ておりました。特に骨折・関節症
の手術に対しても佐藤副院長
をはじめ整形外科の先生方、脊
椎疾患では脊髄脊椎外科治療
センター（高橋院長）にご紹介
させていただいています。

「良い病院を紹介してくれ
てありがとうございます」とお言葉
を受け、戻つて来られた患者
さんからよくいただくお言葉
です。質の高い北九州の医療へ
繋ぐ窓口として、当院の役割を
果たしていきます。これからも
引き続きよろしくお願ひいた
します。

小倉南区の皆さんに明るく活気のある整形外科診療を提供いたします



院長 羅本 尚樹

1983年兵庫県生まれ。大学卒業後、兵庫医科大学整形外科学教室に入局。信原病院で故・信原克哉先生に師事。その後カマチグループ整形外科チームに所属。2025年10月なおき整形外科を開業、現在に至る。

免許・資格 日本整形外科学会指導医・専門医

趣味 野球・旅行(リゾート地)・麻雀・洋菓子作り

住所 〒802-0974
福岡県北九州市小倉南区徳力6丁目10-15

TEL 093-383-5678 (受付)
093-383-5688 (リハビリ)

診療科 整形外科・リハビリテーション科

受付時間	月	火	水	木	金	土
午前	9:00~13:00 (受付8:50~12:30)	○	○	○	—	○
午後	15:00~18:00 (受付14:30~17:30)	○	○	○	—	○ ▲

▲ 受付…16:30まで 診察…17:00まで
●木曜・日曜・祝日／休診



2025年10月1日に小倉南区徳力の地に新しい整形外科クリニックが誕生しました。私は管理者・院長を務めます。羅本尚樹(らもとなおき)です。地域の皆さんにお馴染みの「くすりのフタバ徳力店」が閉店となるタイミングで、跡地を引き継ぎました。守恒・徳力エリアの南側に位置し、モノレールバスによるアクセスが良い立地です。16台分の無料駐車場を確保。地域住民の皆さま方がお役に立てるところを確信し、この地での開院を決意しました。

クリニックの特徴と 特色・概要

新小文字病院との 連携について

地域の皆さんへの メッセージ

私は、大学卒業後、地元の兵庫医科大学整形外科学教室に入局したのち、カマチグループ整形外科チームに8年間所属してきました。2014年に新小文字病院に勤務し、たくさんの方々の症例を経験させていたいだきました。以後も様々な場面で医療連携をさせていただきたいと思います。特に骨折・関節症の手術に対しては佐藤副院長をはじめ整形外科の先生方、脊椎疾患では脊髄脊椎外科治療センター（高橋院長）にご紹介させていただいているため、地域住民の皆さんに信頼していただけますよう、スタッフ一丸となって、明るく活気のある整形外科クリニックを作ることで、地域住民の皆さんに信頼していただけますよう、スタッフ一丸と活動してまいります。

2025年10月1日開院 なおき整形外科

かかりつけ
医紹介 ④



多職種による心不全チームを結成

心不全という病気は、再発や増悪を繰り返すことも少なくありません。入院中の治療だけでなく、退院後の生活全体を通して、患者さんやご家族が安心して暮らせるよう、当院では多職種による心不全チームを結成し、切れ目のない支援を行っています。

このチームは、医師、看護師（病棟・外来・患者総合支援）、薬剤師、リハビリスタッフ、管理栄養士などが協力し、患者さん一人ひとりに合わせた多角的なサポートを提供しています。再入院を減らし、心不全とうまく付き合いながら元気に長く生活するための体制を構築しています。

ご家族を含めた皆さまの不安や悩みに寄り添い、共に考え、歩みを進めてまいります。



主なアドバイス内容

生活指導

食事・水分・体重の自己管理方法



運動指導

心臓に負担をかけない適切な運動量のアドバイス

薬剤管理

心不全治療薬についての正しい知識と飲み方



療養相談

入院中から退院後の生活

困ったときは、いつでもご相談ください。
看護部

地域連携

切れ目のない継続的なサポート

